

テーマの設定理由

海や運河に囲まれた港南の地域において、幼児にとって海や川に生息する水生生物は身近な存在である。その生態や特性等に触れることができるような探究活動を行うことをとおして、幼児の興味や関心を深めたいと考えるため。

活動スケジュール

- 7月15日 タッチングプール体験①
- 10月28日 タッチングプール体験②
- 1月 8日 講師による海の生き物の話を聞く
- 2月18日 魚拓体験

※年間 メダカの飼育



*環境の構成

- ・小型プール（約1m×1m）を複数設置し、その中に水生生物を入れて幼児が間近で見たり直接接触れたりできるようにした。
- ・東京海洋大学と連携し、小さなサメやヒトデなど、多様な水生生物を用意した。
- ・大きな水槽を共有スペースに設置し、年間をとおしてメダカを観察できるようにした。

活動事例

水生生物に触れるタッチングプール体験



- ・ 小型プールの中で泳ぐ小さなサメやヒトデなどの水生生物を間近で見たり直接触れたりすることを楽しんだ。
- ・ 「サメの背中ってザラザラしてる」「ヒトデはカチカチだよ」と感じたことや気付いたことを友達や教師と伝え合っていた。

振り返りを踏まえた気づき

- ・ 普段は見たり触れたりすることのできない水生生物は幼児にとって魅力的な存在であり、その動きや手触りなど、自分が興味や関心をもったことを夢中になって楽しむ姿につながった。
- ・ 身近な海や運河に生息する水生生物という地域資源を活用することで、隣接する東京海洋大学との日常的なつながりをもつことができた。